

BOSEONG 

녹차수도보성 

Web Contents



2026년 04월 20일 10시 26분

목차

목차	2
韓 茶博物館	3
城 茶の 史	3
螳晏沁 豁	3
城 茶の 史的立 資料(文)	3
螳晏沁 豁	3
1939年	3
1943年	3
1957年	3
1965年	3
1969年	3
1970年代	4
1973年	4
1975年	4
1982年	4
1985年	4
1990年	4
1996年	4
2004年	4
2007年	4



螳晏沁 豁

統は信 を築き、信 は 値として現れます - 城 茶より優れた 値を目指し、 城 茶は 統と信 をもとに絶えず挑 します。

城 茶の 史的立 資料(文)

- 伏忽郡が馬韓から百 に統合(近肖古王(369年頃))される中、初めてお茶を利用するようになったという があると記 されている。(城郡誌)
- 城郡文 面大原寺の茶畑(百 東城王(西 494年)のときに建設(古木が現存))
- 高麗中葉から朝鮮初期に運 された熊岾茶所(熊峙地域に位置)
- 山陽誌(崇禎紀元後再辛酉:1741年2月刊行)にお茶が特産品として記 - 1478年以前からお茶が生産される(茶、カヤの 、カラムシ、カンエンガヤツリなど)
- 『世宗 地理志』土貢の - 34ヶ所の産地(慶 道6ヶ所、全羅道28ヶ所(城郡含む))
- 東 輿地勝 (1478年) 城郡編(40 、705面)特産品(茶、麻、ワタ、カラムシ、 、豆)-茶道 第4編輯 茶道の 史 第2章茶の産地、キム ミョンベ、 問社
- 「茶 城」の塔に刻まれた碑文- 百年前からお茶を生産して王室に進上するとともに、 金の代わりにお茶を現物で納める。
- 1960年から 大栽培: 城郡史(1995年 行)- 茶文化の中興と 城(第5章)

螳晏沁 豁

1939年

全 で最初に大規模な茶園を造成 - 30ha(キョンソン化 株式 社): 造成契機 - 表土が深く排水が良く、小石を含んだ良質の土 、海洋性と大陸性の 候 が出 う地点にあり、霧による自然遮光現象で最適な 茶の香りと味が 現される地域 件が、 史的 地理的 候的に大規模な群落地形成の直接的な原因になった。日本の技術陣によって最適な茶栽培地であると判明

1943年

茶園を造成 - 30h

1957年

大韓茶業株式 社を買 (チャン ヨンソプ)

1965年

大韓茶業50ha、夢中山(東洋)茶園30ha

1969年

農漁村特別所得事業(農特事業)として開墾費と植栽費を補助

1970年代

後半からお茶(紅茶)の需要減少と凍害によって茶園の閉園が生じ、存面積が241haに減少

1973年

農特事業として590haまで大(城)は全800haのうち74%を占める

1975年

大韓茶業が茶製造許可を取得

1982年

雀舌園(ソ)チャンシク-茶人結成

1985年

第1回 城茶香祭スタート(茶農結成)

1990年

生産農民たちがお茶を製造

1996年

城郡の特殊施策事業として「全郡民的茶畑造成10カ年計画」を樹立

2004年

263農家95ha(事業費283百万ウォン)を推進、栽培面積は537農家646.3ha

2007年

1,363農家が1.148.7haの茶を栽培

BOSEONG
Web Contents



녹차수도보성